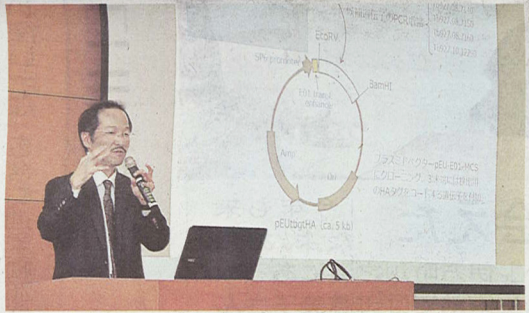


教育・研究 連携広がる

愛媛大 6事業の成果報告



研究成果を報告する松山大の中西雅之准教授—21日午後、松山市文京町の愛媛大

教育・研究の連携事業を進める愛媛、松山両大は21日、松山市文京町の愛媛大総合情報メディアセンターで第2回成果報告会を開い

松山大薬学部の中西

た。2011、12両年度に実施の6事業が報告され、教職員と学生約100人が成果や課題を共有した。

雅之准教授による「アフリカ睡眠病の原因寄生虫の糖鎖合成に関する研究」と、愛媛大沿岸環境科学研究センターの鈴木聡教授による「微生物の環境適応と感染症リスクに関する共同研究拠点形成とフォーラム開催」が学長賞を受けた。

中西准教授は愛媛大が確立した無細胞タンパク質合成法などを応用し、松山大薬学部生と研究を進めた。「研究をきっかけに、日本にとどまらず海外の病気にも興味を持った薬剤師が育てばうれしい」と期待を込めた。

連携事業は10年3月に開始。本年度は6件採択され、原則2年間で実施する。愛媛大の柳沢康信学長は「両大学の連携体制が明確になってきた」とあいさつ。松山大の村上宏之学長は「両大学の特色を生かした研究を進展させ、教育、研究に還

元し、地域に貢献してほしい」と述べた。
(豊田さやか)